牛根（うしね）

6つの集落が互いに協力しながら発展してきた、思いやりあるまち

【垂水市】

牛根地区は、垂水市の北部に位置しています。東に姶良カルデラからなる山々を背にし、西に錦江湾（鹿児島湾）と雄大な桜島を臨（のぞ）むことができる、風光明媚（ふうこうめいび）な場所です。

「牛根」という地名の由来は諸説あり、アイヌ語の森林樹木の多く繁茂（はんも）した山深い所という意味の「ウシニ」が「ウシネ」に転じたという説や、牛根の「ウシ」は「湾」、「ネ」は「所」で、鹿児島湾に面した所というアイヌ語が訛（なま）り、「ウシネ」になったという説があります。

一五〇〇年代後半は肝付氏が治めていましたが、一五七四年、肝付・島津の決戦により島津が勝利し、島津氏の支配下となりました。

当時は、「牛根郷」とよばれており、松ヶ崎地区から中浜集落までを「麓地区」、二川、上之原（上ノ原）、二川、深港、浮津、嶽野（岳野）、高野を「二川地区」と位置づけていました。牛根郷の行政は麓地区でおこなわれていましたが、大正二年の桜島の大爆発を機に、上之原に村役場が移されました。

当時の牛根郷は、農業と林産物で生計を立てており、特に薪炭は牛根炭として名高く、鹿児島城下に供給されていました。牛根の森林地帯は昼でも暗く、猪や狸、ウサギ、山鳥などの繁殖地として島津の家臣が、よく狩猟にやってきていたそうです。

近代になり、明治二十二年には垂水村、新城村とともに牛根村が発足。その頃は現在の松ヶ崎地区と境地区、牛根地区を合わせて牛根村と称していました。

人口（H31.2 現在）
513 人　265 世帯

【中浜振興会】
108 人　55 世帯
【上ノ原振興会】
64 人　29 世帯
【二川振興会】
169 人　87 世帯
【岳野振興会】
28 人　14 世帯
【深港振興会】
63 人　35 世帯
【浮津振興会】
81 人　45 世帯

HISTORY
牛根の歴史

■明治 12 年
牛根村立二川小学校が創立

■明治 22 年
垂水村、牛根村、新城村が発足

■大正 3 年
桜島の大爆発（大正噴火）

■昭和 22 年
牛根村立牛根中学校が開校

■昭和 30 年
牛根村、旧垂水町、新城村を統廃合⇒垂水町の誕生

■昭和 33 年
垂水市制施行（垂水町⇒垂水市）
垂水市立牛根中学校に改称

■昭和 54 年
牛根小学校創立 100 周年

■平成 22 年
牛根中学校統廃合

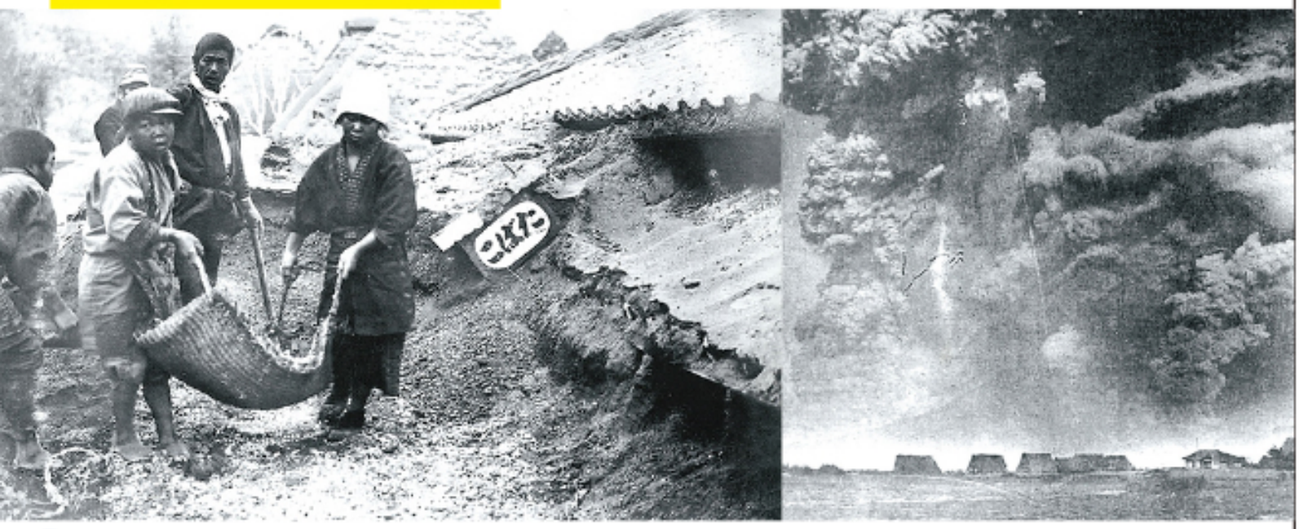
平成三十年には牛根村、旧垂水町、新城村を統廃合し、垂水町が誕生。その三年後には垂水市制が施行されました。

現在の牛根地区は、中浜、上ノ原、二川、岳野、深港、浮津の、6つの振興会（集落）から「牛根地区」が構成されています。

各集落内でのつながりが強く、集落ごとに独特の魅力が形成されてきました。

現在は、牛根地区公民館を中心に、集落間交流も盛んになってきています。

【牛根地区】



↑大正 3 年の桜島大噴火（左）火山灰に埋もれた家、（右）大噴火の様子。